様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：３２６２０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４５９３２２４

研究課題名（和文）ライフコースアプローチによる看護教師の力量形成過程とその促進要因に関する研究

研究課題名（英文）A Research of Professional Development factors of Nursing Teachers based on the life course approach

研究代表者
石塚　淳子（ISHIZUKA, JUNKO）

順天堂大学・保健看護学部・准教授

研究者番号：５０３２９５２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：研究者らは数年前より看護教師を対象にライフコースアプローチの手法で看護教師の力量形成に関する研究を行ってきた.
看護教育に長年携わってきた熟練看護教師がどのような経験をしてきたのかを詳細に知り、その経験を通して看護教師としてのどのような力量を形成したのか、さらにその継続を支えるものは何であったのかをインタビューと質問紙調査により明らかにすることを目的とした。
結果として、看護教師の成長を支えたものとして、「経験豊かなメンターとの出会い」「研究仲間との出会い」があった。看護教師たちは困難な教員人生を送りながら、決してあきらめることなく困難を乗り越えていた。

研究成果の概要（英文）：For several years, using a life-course approach, we have conducted research on developing nursing teachers' competence. As no previous studies have investigated the development of such competence in detail, there is a need to pay attention to these teachers' life histories in order to fully assess their extent of teaching experience.
Through holding interviews with the nursing teachers who have provided nursing education for many years, we obtained the following information: their detailed experience, the competence that they developed based on such experience, and factors that helped them to develop their competence. As the result the development factors were "encounter with the mentor" and "encounter with the co-worker".The nursing teacher got over difficulty. The nursing teacher questions "philosophy" and experiences "an encounter" and grows up.

研究分野：看護教育学

キーワード：看護教師　ライフコースアプローチ　力量形成　促進要因　ライフヒストリー

１．研究開始当初の背景

平成 21（2009）年 3 月の「看護の質の向上と確保に関する検討会」中間とりまとめにおいて、看護教員の専門性を高めるための継続教育や看護教員が臨床現場で実践能力を維持・向上するための機会の確保など、教育機関による創意工夫が必要であることが示唆された。

これを受け、平成 21（2009）年 4 月より厚生労働省にて「今後の看護教員のあり方に関する検討会」が開催され、約１年間の議論を得て報告書がまとめられた。報告書では看護教員の資質・能力が「教育実践能力」「コミュニケーション能力」「看護実践能力」「マネジメント能力」「研究能力」とし、看護教員自身が継続して学習することの必要性を示唆した。

また日本看護学教育学会では調査研究プロジェクトとして、看護教師の資質の発展に関する研究に取り組んでいる。全国の看護基礎教育機関に勤務している看護専任教員の調査の結果、「看護教師の資質の発展に関する研究その１　教師調査」（平成 14 年 12 月）が報告された。その結果、看護教師は看護系大学や短期大学だけでなく養成所においても学位保持者の割合が増加しており、学会や研修会等への参加をはじめとして、自己研鑽を幅広く行っており、自己向上意欲が高く、年齢を問わず、教師としての資質を向上させるために多様なニーズを持っていたことが明らかとなった。

以上の背景から、今後は看護教師になるための準備教育の必要性、看護教師の質を向上させる研修プログラムの開発や、看護教員養成講習会のあり方の再検討、看護教師としての専門性の確立に向けた取り組みが求められている。

本研究はすでに平成 19 年より開始している。その結果より多くの看護教師が経験年数に関わらず、ゆきづまり感と辞めたい思いを抱きながら教育実践していることが分かった。

さらに、看護教師の成長には個人時間（加齢・年齢）、社会時間（家族や職業などの周期）、歴史時間（時代）も大きく影響しており、これらの視点からも分析を必要としていることがわかった。また、看護教師のインタビューは個別具体的でありながら、看護教師としての成長の様相を生き生きと語る様子は、インタビューするものを感動させ、あるいは共感を呼ぶものであった。

本研究では特にインタビューの方法を生かしながら、ライフヒストリーの手法へと発展させる足がかりとして取り組むことにした。

２．研究の目的

本研究のリサーチクエスチョンは「看護教師は、看護教師としての力量をいかなる場で、いかなることを契機として、いかなる具体的内容のものとして形成していくのであろうか。」である。看護教師の成長発達の様相を時代の変化や教育課程の変遷という社会背景を加味したライフコースという視点からとらえようと試みる。

本研究では先行研究をさらに発展させ、将来的な看護教員の力量形成サポートシステムの構築に向けて、力量形成に影響を与えた促進要因に焦点を当てて分析をすることを目的とする。

３．研究の方法

本研究は、ライフコースアプローチに基づき、看護教師を対象とした調査である。ライフコースは変容性・多様性・コーホート性・歴史性といった４つの特性を有した複合的性格であると述べている。そしてこの４つの特性に対応させた分析枠組みとして①時期による変化②力量形成上の契機③教師として必要な力量④時代と教師、という４つの視点を設定した。さらに、教師の成長には個人時間（加齢・年齢）、社会時間（家族や職業などの周期）、歴史時間（時代）も大きく影響しており、これらの視点からも分析が必要としている。

看護教師のライフコースに内包されている特性をより鮮明に浮かび上がらせるために、多様性という特性についてはインタビュー調査とその事例的考察を行う。

特に今回の研究においては近年注目されているライフヒストリー研究の方法について検討し、より個別具体的な看護教師の力量形成過程に焦点を当てることを主眼とする。

また、コーホート性については先行研究の結果を再分析することから始め、修正した質問紙を用いて調査を行うこととする。

４．研究成果

1）インタビュー調査

①:3 名の熟練看護教師（年齢 50 代から 60 代）の計 4 回から 5 回のインタビューを行った。さらにインタビューに追加してインタビュアーの文書資料を分析対象とした。インタビューは記録類を加えることで語り手が生きてきた歴史的背景に編みなおされる。したがって、研究協力者より得られたもの（カリキュラム、授業案、授業資料、実習要項、研究論文、研究報告、年次報告書、その他研究協力者が書いたもの）もできる限り参考にした。インタビューにおいて、資料を確認しながら進めた。

熟練看護教師らの看護教師としての成長を支えたものとして＜経験豊かなメンターとの出会い＞ ＜研究仲間との出会い＞の要因が導きだされた。3 名の看護教師は困難な教員人生を送りながら、決してあきらめることなく困難を乗り越えていた。それは様々なターニングポイントとしての【出会い】を経験しながら、看護教師のとしての力量形成をしていったことがわかった。

②3 名の看護教師にインタビュー内容を看護教師としての職業継続要因に焦点を当ててインタビューを実施した。インタビューは許可を得て録音して逐語録を作成した。逐語録

を何度も読み返し、「その看護教師が大事にしていること」を表している箇所、研究者がきになる箇所にアンダーラインをひき、符箋を用いて同じ意味内容を集めて帰納的に分析した。それぞれの看護教師は教師としての経験の中で様々な問題にぶつかりながら、決してあきらめることなく困難を乗り越え、様々な出来事を経験しながら看護教師としての職業を継続させており、それらの出来事は看護教師にとって意味のある経験【出会い】となっていた。

2）質問紙調査

看護教師 190 名の回答から、看護教師たちが自らの成長を促進させている要因と考えていることは以下の通りである。

①教職活動を進めていく上で基盤となった事柄として①位は「看護教員養成講習会から得た知識」2 位は「看護教師になってから上司から受けた指導」3 位は「看護教師になってから同僚との交流」であった。

②看護教師になったばかりの頃に役だったものとして 1 位は「経験豊かな看護教員の日常のアドバイス」2 位は「年齢の近い看護教員との交流」3 位は「上司からの指導・助言」4 位は「看護学生との日常の交流」であった。特に 30 歳までの看護教師は年齢の近い看護教師との交流は 60%が役立ったと答えている。

③自信の教育実践や考え方に影響を与えたこととして 1 位は「臨床実践上（看護師）の経験 2 位は「教育実践上（看護教師）の経験」3 位は学校内での優れた人物との出会い 4 位は「学校外での優れた人物との出会い」であった。特に学校外での優れた人物との出会いは年代の高い中堅から熟練の看護教師に多かった。

以上のことから若い看護教師にとっては経験豊かな同僚だけでなく、年齢の近い同僚からも大きな影響を受けており、経験が深まるにつれて学内だけでなく学外に視野を広げて学習機会を求めて成長しようとする傾向が高くなることが分かった。

看護教師の成長を促進する要因として最も影響が高いと考えられるのは看護教師になる前の看護師としての臨床での経験が土台となり、さらに看護教師となってからも同僚や学生といった人間同士の相互作用からの影響が大きいこともわかった。

3）考察

日本においては看護教育に携わるには一旦看護師としての臨床経験年数を必要とするケースがほとんどである。看護職という職業の性質上、患者や療養者や家族といった人の健康問題を解決するという、人と関わる専門職であり、その実践内容には教育的な関わりが必須である。

看護学生時代から対人援助職としての必要な技術を学習することになる。看護教員は看護を選んだところから教育的な力量を学ぶことになるのである。

まずは臨床家として看護師あるいは助産師や保健師といった看護職に就いて経験を積み、教育の現場に入るというのが看護教師のプロセスとなるが、教育者になってから初めて教育的力量の学習を始めたのではないため、土台として基本的な教育力が備わっているとは言っても過言ではない。

看護教師の力量には看護職養成課程で培われた基礎的力量と現場での実践を通して培われた一般的力量と看護教師独自の得意技等を含めた個別的力量が積み重なって形成されていくと考える。看護教師としての職業を継続していくうえではいくつかの危機を乗り越えていかなければならない。その危機という出来事を乗り越えるには何らかの【出会い】の経験があり、その【出会い】によって看護教師として培ってきた教育観・看護観などの【観】の問い直しがある。その【観】とは看護教師が臨床実践経験から得た実践知や自らが受けた被教育経験などから形成されたものであり、授業や実習指導に対する考え方を統合する核といえるものである。

熟練看護教師たちは教師経験の中でいくつかの出来事を経験しているが、それらが看護教師のもつ【観】に影響を与えるという【出会い】経験となるその上で看護教師としての力量を様々な【出会い】を経験し、力量形成している姿があった。そしてその力量を高めるためにはいったん確立した教師としての【観】の問い直しが求められており、その問い直しとは看護教師の語りにあるターニングポイントとしての【出会い】である。

この【出会い】は看護教師自らが求めたり、職業上意識したりしなくても起こることでもある。

看護教師の力量形成を促進する要因とは、同僚や先輩看護教師との日々の交流が大きく影響するだけでなく、他分野（看護学だけではなく）へ視野を広げ、生涯にわたって学び続ける姿勢であることがわかった。

4)今後の課題

ライフコースアプローチという研究方法を看護教師の力量形成に焦点を当てて行ってきたが、一般的な教師教育の教員養成課程と違い、看護教師の養成課程は複雑多岐にわたっている。そのため、今回は年代で単純にコーホートを分類してみたが、単純に分類することが難しいことがわかった。

看護教師の背景は養成校が専門学校や大学、資格も准看護師から看護師、保健師、助産師と他種類である。

また、看護教育のカリキュラムも時代の影響を受け、保助看法という法律の改正や看護職の離職問題の対策から継続教育の問題まで時代によって看護教師が大きな影響を受けていることがわかった。

その点では熟練看護教師のインタビューに

より社会の変化と看護教育の変化が歴史の流れのようにストーリーで語られることは、今後のライフヒストリー研究への示唆を得る結果となった。

次の研究への発展させる課題を以下に述べる。

第一には、日本に限らず海外の看護教師のライフヒストリー研究を推進させることである。

近年、わが国では看護師養成の課程を持つ看護系大学・学部が急増している。その背景として、医療の高度化などに伴い日本看護協会が4年制大学を中心とする看護師養成の方針を打ち出したこと、看護師の不足が深刻化しており、看護師不足解消のため文科省が積極的に看護系大学・学部の新設を認めてきたという事情もある。それに伴い看護教員の不足が大きな問題となっている。新設大学・学部などでは十分な教員を確保することができず、また教員になったとしても、数年で離職するケースも問題となってきている。

若い看護教師たちがリタイヤすることなく教育者として成長していくためにも、長い間日本において看護教育に携わってきた熟練看護教師の発達と力量形成の過程をより具体的に明らかにする研究も必要であると考える。この研究成果を基にして看護教師たちの力量形成に役立つプログラムを開発することが可能となり、教育力の向上を期待できる。

第二として、ファカルティ・ディベルプメントのように組織で課された力量形成システムだけでなく、インフォーマルな力量形成システムを作ることである。

さらに看護教師の力量形成を促すためには「組織を超えた看護教師の学び合う仲間づくり」という仕組みをつくることである。異なる組織に属する看護教師が集まり個別具体的な教育実践を語り合う場があれば、若い看護教師の力量形成に役立つこととなり、看護教員の質の向上にもつながると考える。

今後も継続して看護教師の力量とは何か、力量形成を促進するためにはどのようなプログラムが効果的なのか、研究を進めていきたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計４件）

① Michiko Sato,Junko Ishizuka, Sino Sasaki, Minako Yoshimura,Sihoko Nomura:A Research on Professional Development of Nursing Teachers in Japan(Part １）：The Characteristic of Nursing education and Nursing Teachers、The 3rd East Asian International Conference on Teacher Education Researc、2012.12.7（Shanghai）

② Junko Ishizuka, Michiko Sato,Sino Sasaki, Minako Yoshimura, Sihoko Nomura:A A Research on Professional Development of Nursing Teachers in Japan (Part 2): Looking for The Reason why they want to leave or why they want to stay、The 3rd East Asian International Conference on Teacher Education Research、2012.12.7（Shanghai）

③石塚淳子、佐々木史乃、佐藤道子：看護教師の力量形成過程とその促進要因に関する研究、日本質的心理学会第 11 回大会、2014 年 10 月 18 日（松山）

④石塚淳子、佐々木史乃、佐藤道子：看護教師の力量形成過程とその促進要因に関する研究―3 名の看護教師のライフヒストリーインタビューを通してー、第 20 回日本看護研究学会東海地方会学術集会、2016 年 3 月 19 日（横浜）

６．研究組織

(1)研究代表者

石塚　淳子（ISHIZUKA, Junko）

順天堂大学・保健看護学部・先任准教授

研究者番号：50329520

(2)研究分担者

佐藤　道子（SATO,Michiko）

岐阜聖徳学園大学・看護学部・准教授

研究者番号：60410510

佐々木　史乃（SASAKI,Sino）

順天堂大学・保健看護学部・講師

研究者番号：20596332